

◆地域と連携した高齢者福祉学習

大正区北恩加島小学校区はぐくみネットの取組

1. 認知症サポーター養成講座開講のきっかけ

令和2年度、コロナ禍での児童の町たんけん授業の相談で、北恩加島小学校の担当教諭が校区の「老人憩の家」を訪問した時に、大正区の社会福祉協議会の見守り推進員や校区はぐくみネット協議会の会計監査の方、地域の方々と出会った。そこで北恩加島地域の実情について話を聞き、この校区には高齢者が多いこと、子どもたちが認知症の方と町で出会うという状況があることが分かった。

また、子どもたちが高齢者福祉について学ぶ機会を作りたい、という思いが双方にあることも分かり、高齢者福祉についての学習の具体的な取組を始めるきっかけとなった。

2. 認知症サポーター養成講座を子どもたちに

大正区の社会福祉協議会等で行っている認知症サポーター養成講座には、高齢者しか受講しない、という実態があった。この講座で高齢者福祉について理解してほしいのは若年層である。子どもたちにも、子どもに守ってもらわないといけいない人もあることを知ってほしい、とも考えていた。そこで小学校での講座開講をめざし、理解を得て定着するのに3年間を要した。令和2年度に初めて2年生で実施し、その子たちが5年生になって2回目の認知症サポーター養成講座を受けることになっている。2年生と5年生での実施を目標にしている。

中学校での開講も目指して調整中で、5年度は実施する予定である。

3. 北恩加島小学校の取組

2年生と5年生は認知症、4年生は障害について、1年生は昔遊びで地域の人と交流し、触れ合う。3年生は地域の人を交えての車椅子体験とアイマスク体験。社会福祉協議会の支援で実現した。車椅子は大正区社会福祉協議会の声掛けで他区からも集め、10台以上が届いた。地域の高齢者が車いすの横に付いて児童が体験した。

6年生は高齢者疑似体験。（かつて3年生で実施した時には体験用のベストなどが児童の体より大きくて、体験にならなかった。）重りの入ったベストや肘・膝・手首の曲がりにくい装具、視野が狭くなるゴーグル、聞こえにくいヘッドフォン、など動かしにくさの体験で、実際に丸めた紙を投げてみたり、立ち座りしたりして不便であることが分かった。そういう体験ができると、高齢者の方を労わってあげようという気持ちになる。

4. 講座の内容

全部で90分。1時間目は講義、2時間目はペープサート。最後に子どもたちの感想・アンケート。先生方が受ける講座では若年性の認知症に触れるが、子どもたちには若年性認知症の事は、自分の親の世代になるので触れていない。受講の対象者によって内容を変える、2年生用・5年生用・中学生用。資料の用意は包括支援センターのオレンジチーム（認知症専門のオレンジチーム）がする。今年度



は大正北中学校で3学期に予定している。

気がついていなくても周囲に認知症の人は存在している。子どもたちには、「何回も同じことを聞く人がいたりしても怒らないでね」、「帰り道のわからない様子の人が、近所の人だと分かったら声かけてあげてね」、「知らない人だけれど困っているな、と思ったら安全サポーターさんや先生に知らせてね」、などと話している。見知らぬ人への声掛けはしないようにと言っている。あくまでも顔見知りの近所の人への声掛けを助言している。

自分のクラスにいる支援の必要な児童の言動について、「なんでかな」と理由を考えるようになり、



理解が進んだ。低学年で受けて、再度高学年で受けることの繰り返し学習で理解が深まる。講座のテキスト「認知症ってなあに」という厚生労働省老健局と全国キャラバン・メイト連絡協議会が作成している資料を、児童が家庭に持ち帰り、保護者にも見てもらっている。授業では高齢者施設や重度障害者の方の施設も訪問して、良い経験になっている。

5. その他

○子どもたちや地域の方の変化

子どもたちは受講すると、サポーターカードというものがもらえ好評である。子どもたちの高齢者への対応の変容については明確でないが、特別支援学級に在籍する児童に対する対応は変わった。それらの児童の言動の理由を考え、理解しようとするようになってきた。

逆に高齢者の子ども理解では変化があった。一例であるが、児童の公園での自転車の並べ方などについて、学校に苦情を寄せられた方があった。ところが、昔遊びにその方が参加してくれた頃から苦情がなくなった。子どもたちの姿についての理解が進んだからかもしれない。

○保護者対象座談会（PTA 主催事業）の様子

テーマは「福祉全般について」（去年は認知症・介護について。今年は子育てについて。）

虐待とか認知症とか、話題を提供する人の話の方向によって主題が移っていくこともある。

参加者は10～15人で、PTAの実行委員を中心に声掛けしている。

○学校の受け入れ方・講座以外の地域とのつながり

- ・若い先生の割合が多く、講座の内容全部を教えるのは難しい。半分を地域の専門の人に助けてもらえるのはありがたい。
- ・SDGs「住みよい町づくり」の学習で、昨年度6年生は「大人になって、この地域をどうしていきたいか。」というテーマについて話し合い、大正区長に「町の未来」についての話を聞く機会を得た。障害者への対応や空き家問題についての区役所の取組を知った。

3年生・・・街の一員の立場で北恩加島の町を考える。

6年生・・・大正区民としての立場で大正区の未来を考える。

聞取り日時：令和5年10月23日（火曜日）